

健 診 後 の 指 導

動 向

予防医学協会が実施している健康診断の受診者総数は統計表（検診・検査の種目別実施数）のとおりである。近年、定期健康診断や人間ドックなどで有所見率が増加しているという報告がなされている。これらの受診者に対して当協会では事後措置のために各種外来、保健指導、健康教育の場を提供している。

平成15年度における施設での健診後のフォロー体制は、①精密検査の体制 ②事後指導の体制 ③生活習慣改善プログラム、の三つの側面から受診者を支援している。

事後指導の体制

消化器外来

消化器検診、大腸がん検診、腹部超音波検査の精密検査およびフォローアップを実施している（胃集団検診・大腸がん検診・超音波検診参照）。

循環器外来

定期健康診断、人間ドックなどの循環器系有所見者の精密検査、フォローアップ、生活指導などを実施している（循環器精密検診参照）。外来受診者は1565名。

生活習慣病外来

生活習慣病の精密検査や生活指導を行うための外来である。検査結果をもとに医師が指導方針を定め、保健師が生活習慣の改善指導を行う。平成16年度は延べ267名が受診した。

また生活習慣病改善プログラムに参加した受診者の医学的検査、結果の説明などを行っている（健康増進参照）

労働災害二次健康診断

業務によるストレスや過重な労働負荷により、脳・心臓疾患を発病し、死亡あるいは障害になり労災認定される件数が増加している。そのため2001年4月から肥満、高血圧、高血糖、高脂血症の4項目全てに異常が見られる場合（死の四重奏）に労災保険を適用した二次検査が行われるようになった。

特定保健指導は、栄養指導、運動指導、生活指導

などライフスタイルの改善の指導を行った。

腎外来

昭和51年から学校検尿で管理が必要な学童に対して、月1回、腎精検のための外来を設けた。その後学童の家族の相談、事業所の健診で腎疾患の疑いのある人も対象とした。受診者は80名、保健師による指導は78名、管理栄養士による指導は37名。

糖尿病外来

糖尿病の大多数は生活習慣が大きく発病に関与する2型糖尿病である。健診後に所見のあった人に事後指導を行う。平成16年度は81名。

保健師・管理栄養士による指導は65名。

女性クリニック

更年期特有の愁訴の著しい婦人に女性クリニックを開設している。平成16年度は78名で年齢階層別には50歳～55歳を中心に45歳～60歳に多く、ホルモン補充療法に対する要望が多い。

保健師が指導しているのは44名。

整形外科

骨粗鬆症予防検査で生活注意、要治療の人の事後措置を行っている。今年度は272名が外来を受診。

特に生活注意が必要な人に食生活、運動などの保健指導を263名行っている。

禁煙外来

禁煙外来は喫煙者に対するカウンセリングであると考えて対処している。当初はパッチを貼ってもらえれば事足りると考えていたが、現実には「禁煙希望の喫煙者」との真剣勝負である。従って、相手の喫煙モードがどの辺にあるかを探り出し、自らの禁煙への意志が如何なるものであるかを確認する問答をつづける。従って初診時では1人に30分は充分にかける。二回目からでも15分をかけている。

禁煙外来中はあくまできっかけを与えたにすぎない。生涯禁煙を目標に当禁煙外来では保健師によるフォローアップとインターネットによる継続コースの紹介をしている。